

届けます。全国からの支援の手

能登半島地震災害義援金の配分について

3月25日に発生した能登半島地震に対して、全国のみなさんから温かい災害義援金が石川県や能登町に寄せられました。

これらの義援金は、被災者のみなさんに公平に配分されるよう配分委員会で審議され、次のとおり配られることになりました。被害を受けた方は、下記のとおり必要な手続きをしてください。

1. 義援金の配分基準

(1) 人的被害

- ①死亡…… 400,000円 (県分)
- ②重傷者 (要治療見込み日数が1カ月以上の負傷) …… 350,000円 (県分)
50,000円 (町分)

(2) 住家被害

(生活の本拠である住家の世帯主に配分)

①全壊	県分	700,000円	申請不要
	町分	100,000円	
②大規模半壊・半壊	県分	350,000円	申請不要
	町分	50,000円	
③一部損壊	県分	15,000円	
	町分	5,000円	

※一度の申請で県分・町分を配分します。すでに県分を申請した方は、その時の申請に基づいて町分を振り込みます。

○住家被害の①全壊、②大規模半壊・半壊の被害については、被災者生活再建支援制度に基づく助成金の配分に併せて申請時に指定された口座に振り込まれます。

○今回申請が必要な方は、人的被害と住家被害のうち「③一部損壊」の方のみです。

○「一部損壊」とは、住家の壁の亀裂や一部落下、風呂のタイルの落下など、家屋の修理を必要とする住家被害(5万円以上)とします。空き家は対象になりません。

(町の発行する「り災証明」は必要ありません)

地震による町道の通行止めは6路線

地震による被害が大きいため、通行止めとなっている町道は6路線、農道は1路線です。(6月1日現在)

復旧には、まだしばらくの期間が必要ですので、みなさんにご協力をお願いします。復旧工事が終了し、通行が可能になりました。有線放送や広報紙でご案内します。

地区	路線名	被害状況
能登町	1級当目鶴町1号線	鶴町〜桜峠までの区間に亀裂、段差多数あり
柳田	2級大箱北河内1号線	路肩陥没、亀裂あり
柳田	大箱	路肩陥没、段差あり
柳田	北河内9号線	当目大箱1号線
柳田	北河内	路肩決壊
内浦	行延	行延地区内の橋梁、桁のずれ、構造物亀裂
内浦	時長1号線	橋梁、橋台破損
河ヶ谷	河ヶ谷1号線	道路陥没
十郎原	十郎原51号線(農道)	



1級当目鶴町1号線(鶴町地内)



補正予算など報告16件を承認

能登町議会第1回臨時会が5月17日に招集されました。会期を1日間と定め、能登半島地震に伴う災害関連事業を計上した平成19年度一般会計補正予算(第1号・第2号)など専決処分にかかる報告16件が上程されました。採決では、報告16件すべてが承認されました。

また、諸般の報告において、菊田俊夫議員の議会運営委員長辞任に伴い、大谷内義一議員が新たに議会運営委員長に互選されたことが新平議長から報告されました。

期末手当削減案を可決

続いて、平成19年6月から平成20年12月までに議員に支給さ

れる期末手当の額を20%削減する議員提出議案「議会議員等の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について」が上程され、原案のとおり可決されました。

【承認された報告:16件】

- 平成18年度補正予算(第6号)▼
一般会計補正予算(第6号)▼
歳入歳出それぞれ373万4千円を追加し、予算総額を146億6354万円とする。
- 平成18年度補正予算(第7号)▼
一般会計補正予算(第7号)▼
歳入歳出それぞれ884万4千円を減額し、予算総額を145億7509万2千円とする
- 国民健康保険特別会計補正予算(第5号)
老人保健特別会計補正予算(第2号)
- 平成19年度補正予算(5件)
一般会計補正予算(第1号)▼
歳入歳出それぞれ836万円を減額し、予算総額を134億964万円とする
- 国民健康保険特別会計補正予算(第3号)
- 能登町国民健康保険条例の一部を改正する条例について

議会議員等の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について▼
平成19年6月から平成20年12月までに支給する期末手当の額を20%削減する

【可決された議会議案】

議会議員等の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について▼
平成19年6月から平成20年12月までに支給する期末手当の額を20%削減する

先日配布したチラシには「修理費の領収書または修理明細書を持参ください」とありましたが、申請時に領収書などの提示は必要ありません。(念のため、1年間保管してください)

能登半島に初夏の訪れを告げる深紅の花 「のとキリシマツツジ」が今年も咲き誇る



5月上旬から中旬にかけて見ごろを迎える町花「のとキリシマツツジ」。ゴールデンウィークには各地で展示会も開催され県内外からたくさんの方がキリシマを觀賞しに町を訪れました。



能登の名を冠する唯一の花「のとキリシマツツジ」。近年は、DNA鑑定など学術的調査も進み、満開の時期には連日マスコミに取り上げられるなど、その注目度は年々向上しています。

5月上旬、能都庁舎（写真右）、柳田植物公園（写真中）、能登空港（写真左）の3カ所で、恒例となっているのとキリシマツツジの展示会が開催されました。各展示会場では、愛好家によって大切に育てられた満開ののとキリシマが見事に咲き誇っていました。その真紅の花は、県内外から訪れるたくさんの方の観光客を魅了していました。

能登町では柳田地区の4株を町の文化財として指定しています。また、昨年4月には珠洲市「大谷ののとキリシマツツジ」と輪島市「赤崎ののとキリシマツツジ」が県指定の文化財となるなど、先人が守り続けたのとキリシマツツジの文化的評価も高まっています。

「日本一のキリシマ」
能登半島はキリシマツツジの保存について、その規模の大きさは日本一であり、のとキリシマは能登地方の固有種の可能性があるということです。

夜明けとともに・・・

漁師町・小木に伝わる「とも旗祭り」は全国的にも他に類を見ない海の祭りとして、昨年県指定無形民俗文化財に指定された。毎年5月2・3日に行われるこの祭りは、約800枚の和紙をついで作る高さ20m、幅2mのとも旗9本が、それぞれ願いを込めた5文字を描き、大漁と海の安全を祈る。

漁師町の祭りは早い。午前4時「起きんかヤッサイ」と、子どもたちは太鼓を鳴らしながら町内を回り、大人たちが港に集まる。夜明けとともにとも旗を起す準備が始まり、祭囃子に合わせてとも旗が起きあがる。文字に貼られた細かい金銀の紙が朝日を浴びてキラキラと輝く。小木港に揃った9本のとも旗は、曳船に引かれながら湾内をゆっくりと周回する。

とも旗祭りの本祭りは3日の午後、町内を練り回った御輿が海岸に到着し、御座船に向かう。御輿の担ぎ手からは「ようさ、ようさ」のかけ声。「よう」は魚を意味し、「さ」は敬称を意味するといわれている。

例年ならば、ここで御座船と9本のとも旗は一つにつなぐパレードをしながら洋上で神事を行う。しかし今年は「風」が強かった。支柱が折れたり竹が折れるほどの強風の中では、祭りの安全が優先される。御座船には4本だけが残され、沖での神事も中止となった。

「自然が相手の漁はいつも思いどおりにいくとは限らない」。だからこそ小木の人たちは、この海の祭り「とも旗祭り」を大切に伝承・保存しているのだ。



能登町祭り歳時記 ～小木とも旗祭り編～

平 成15年、笹川の宮本康一
さん宅に穴水町、能登町、
珠洲市のキリシマツツジ愛好家
8人が集まった。「のとキリシ
マツツジの情報を共有し、結集
してやろう」と柳田村盆友会の
会長である宮本さんが呼びかけ
た会合だった。この会合を機に
「のとキリシマツツジ連絡協
会」設立の気運が高まり、平成
16年6月、穴水町上中公民館で
能登半島全域を対象とした組織
が誕生した。

「まずはたくさんの人にキリ
シマを知ってもらいたい」と協
議会は探訪マップをかねた。ポス
ターを制作、そして能登空港
で「のとキリシマツツジフェス

ティバル」を開催した。

制作したポスター1万部
はあつという間になくなり、
フェスティバルには3日間で
7000人が訪れるなど協議会
の活動は大きな反響を呼ぶ。

このフェスティバルの反響か
ら、倉重祐二氏（新潟県立植物
園副園長）と小林伸雄氏（島根
大学生物資源科学部准教授）の
2人の専門家がのとキリシマツ
ツジの学術調査を行うことにな
った。日本のツツジを研究し
つくしてきたはずの2人の学者
は、能登半島にこれだけたくさ
んのツツジがあることに非常に
驚いたという。

「何が本当ののとキリシマな

のか、そのルーツが知りたい」
のとキリシマのルーツを探る
ことは、盆友会でもたびたび議
論されてきた大きなテーマのひ
とつだった。

平成18年、2人の学者は珠洲
市で調査報告を行う。「学術的
にしっかりとすることにより、マ
スコミの取り上げ方が変わっ
た。今までの自分たちの活動は
無駄ではなかったが、説得力が
なかった」と話す宮本会長。「今
後はさらにDNA鑑定を進め、
能登にしかない花ということを
実証してもらいたい。そしての
とキリシマを県の宝、国の宝と
して認めてもらいたい」と語る。
のとキリシマの普及はこれか

らも進むという宮本会長が次に
力を注ぎたいことは「保存」だ。
「キリシマの移植ができるよう
な人間は数人しかいない。高い
技術をもった人材をいかに育て
るかが大きな課題」という。

「のとキリシマは能登半島の
大切な文化。文化には人が欠か
せない」と考える宮本会長。「キ
リシマは、家があり人がいて育
つ。人間とともに生きていく。
人の心が木に移り、感動させる
ようなキリシマになる」と話す。
わたしたちの先人が、大切に
守り続けてきた「のとキリシマ
ツツジ」。その燃えるような真っ
赤な姿は、能登半島を元気にす
る原動力になる。

「のとキリシマは、大切な文化」

のとキリシマツツジ連絡協議会会長

みやもとこういち

宮本康一さん（71歳・笹川）

春の交通安全運動
無事故を祈る涅槃団子

安全運転を呼びかける街頭キャンペーンが、5月16日に松波地区で行われました。この運動には内浦レディードライバーズクラブの会員や能登警察署員ら22人が参加しました。

会員らは、交通安全への意識を高め事故防止へつなげて欲しいと、手作りの涅槃団子のお守りやパンフレットなどを道行くドライバーに手渡しました。また後部座席も含めたシートベルト着用や、歩行者を思いやる運転をしてくださいとドライバーに声をかけていました。運動期間中だけでなく、日ごろから心とスピードに余裕を持った運転を心がけましょう。



ドライバーと笑顔で言葉を交わす会員のみなさん

悪戦苦闘しながらも泥の感触を楽しんでいました



真脇遺跡体験村で古代米苗植え
秋になったら豊作だ!

真脇小学校の児童と小木小学校の5・6年生が5月14日、真脇遺跡体験村で古代米の田植えに挑戦し、食べ物の大切さや農業の大変さを学びました。古代米は、日本で古くから栽培されてきた稲の原種であり、生命力が強く、荒地でも丈夫に育つ性質をもっているそうです。

児童たちは裸足になって田んぼに入り、どろんこになりながら緑米(古代米の1種)の苗を丁寧に植えていきました。刈り取りは10月下旬に予定しているそうです。みんなの植えた緑米が立派に実るといいですね。

スポーツに懸ける気持ちを元気に宣言する赤坂くん



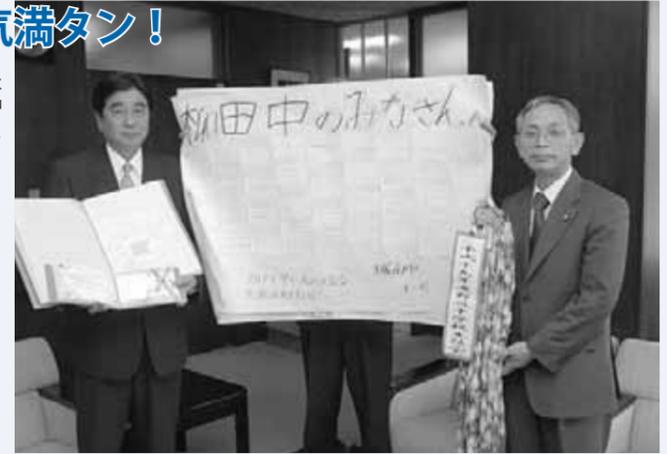
能登町スポーツ少年団結団式
スポーツで鍛える心と体

団員としての自覚を高め各団体との交流を深めようと、スポーツ少年団結団式が4月22日に行われました。会場となった内浦体育館には団員や指導者など400人が集まりました。式では団員を代表して赤坂裕樹くん(内浦ミニバス)、佐田賢二郎くん(宇出津野球)、武藤有海くん(柳田野球)の3人が1年間の活動に対する誓いの言葉を述べました。

このあと自分自身の体力を把握し、弱点を克服する目安にしようという体力テストが行われました。立幅跳びや5分間走など5種目が行われ、団員は楽しみながらテストに挑戦していました。

義援金・応援メッセージ贈呈式
たくさんの愛情で元気満タン!

▶紙屋中学校からは、大きな模造紙に貼られた応援メッセージが届きました。町内5つの中学校宛に書かれたもので、後日各中学校へと届けられました



▼持木町長に義援金を手渡す溝口南砺市長



能登半島地震発生から2カ月あまり。わたしたちの町に対するお見舞いと応援の気持ちがたくさん届けられています。4月24日にはスポーツを通して交流を深めている富山県南砺市の溝口市長ら関係者4人が来町し、義援金が届けられました。

また5月22日には、金沢市の城南中学校、姉妹都市である宮崎県野尻町の野尻中学校と紙屋中学校の生徒たちから、応援メッセージや千羽鶴、義援金などが届けられました。「自分たちには何かできないか」と生徒会が中心となって取り組んだということです。このメッセージは内浦庁舎1階で展示しています。能登町に元気をくれたみなさん、温かいご支援、本当にありがとうございました。

きき酒研究会
新酒ずらり匠の技を競う

5月22日、能登杜氏組合能登町支部のきき酒研究会が内浦スポーツ研修センターで行われました。この研究会は能登杜氏の技術向上を目的として毎年この時期に開催されています。

全国に誇る能登杜氏の技術を競う品評会では、支部員の杜氏19人が自慢の新酒を持ち寄り、吟醸酒と普通酒の2部門で色や香りなど酒の出来を競いました。

今年は暖冬で苦労したという意見が多くありましたが、全国清酒品評会では、今年も数多くの能登杜氏が金賞を受賞するなど、その技術の高さを改めて証明しました。



ほかの杜氏がつくった酒の味を確かめる能登杜氏のみなさん

「赤崎いちご園」最盛期
いちご狩りへようこそ

毎年5月中旬から6月上旬にかけて県内外から観光客が訪れる赤崎いちご園。今シーズンも甘くて真っ赤ないちごが実り、週末には家族連れなど大勢の人で賑わいました。

5月19・20日には、赤崎海岸休憩場でイベント「莓一会(いちごいちえ)」が開催され2日間でおよそ1,200人が訪れました。会場ではいちごミルクが振る舞われ、タケノコ飯やほうば飯などこの季節ならではの品が人気を呼んでいました。またイカ焼きや深層水ラーメンなど、町の特産品なども販売され、訪れた人たちは赤崎海岸を眺めながら能登の味覚を楽しみました。



家族連れで賑わういちご園

患者さんの様子を気を配りながら優しく声をかける生徒



ふれあい看護体験
未来のナインゲール

看護する心や人に対してケアする心を肌で感じてもらうと、5月8日に公立宇出津総合病院で高校生を対象とした看護体験が行われました。参加した10人は、真っ白な制服に身を包み、患者さんのお世話をしていました。少し緊張した表情で、看護師の指導を受けながら検温や血圧測定などを行いました。

福祉や看護の世界に興味があって参加したという生徒たち。唯一の男性だった谷内茂幸さんは「自分に合いそうな職業だと思いました」と参加の動機を話していました。初々しい一日看護師の訪問に、患者さんからは笑顔もこぼれていました。